



とらいあんぐる



2017 年 5 月

一音会ミュージックスクール発行

「はずれクジ」

自分の子どもを育てる時、「よその子とくらべずに育てる」ということは、頭では分かっているけど、本当に難しいことです。もしかしたら、不可能なのではないかとさえ、思います。

苦労せず何でもすいすいできてしまう子もいれば、それと正反対の子もいます。

ええ、もちろん分かっているのです。それこそが、個性です。

わが子が、不運にして、何をやるにも、人一倍、時間と努力が必要なタイプだったとしても、わが子のかわいさが減じられるものでもありません。

どんなに劣等生であっても、かわいいことには変わりはないのです。

でも、でも、・・・なのです。

わが子が一番かわいい、という気持ちがあったとしても、いいえ、その気持ちがあるからこそ、わいてきてしまう思いなのでしょう。

なんでうちの子は・・・。

なんでうちの子は、ほかの子と同じようにできないのか？

なんでうちの子は、ほかの子がみんなできていることが、できないのか？

なんでうちの子だけ、こんなに苦労しなければならないのか？

簡単にできている子もいるのに、なんでうちの子は・・・。

娘のキョウコは、小さい時、何もできない子でした。

お友だちが努力しなくても、自然にできてしまうようなことが、キョウコだけ、がんばってもがんばってもできない、ということが、しょっちゅうおこっていました。

言葉がとても遅く、根気強く教えても字が読めませんでした。

同年齢のお友だちの中に、ひらがなを書ける子が多くなった頃でも、キョウコは、書くことはおろか、読むことさえ、できませんでした。自分の名前ぐらい読めないと、外で苦勞するだろうと、毎日、私がひらがなを教えていたのですが、キョウコはまったくおぼえられませんでした。

そんな頃、お友だちのお母さんから「うちの子は、何も教えたことがないのに、絵本をいつの間にか一人で読んでいたのよ」という話をきかされた時には、深くため息をつくしかありませんでした。

もちろん私も、絵本は毎日、読みきかせていました。絵本に興味を持つよう、いろいろな働きかけもおこなっていました。

またいつもの感情がわいてきます。

なんでうちの子は・・・。

たった1つでも、うちの子に得意なことがあれば良いのです。「うちの子は〇〇が得意」という、その1点をよりどころにして、またお母さんはがんばれるのです。

そのたった1つが、キョウコにはありませんでした。

ハタのおけいこでは、2本で1年半という歳月を費やしました。

ピアノを弾かせれば、指が極端に動きません。私の母が、「長くピアノを教えてきたけれど、こんなに指が動かない子ははじめて！」と、驚いたほどです。

不器用は指だけにとどまりませんでした。動き全般がぎこちなく、よく転んでいました。

体格が小さく、食がほそく、やせていました。

身体も弱く、しょっちゅう病気もしていました。

走るのも遅く、運動で得意なものは、何1つ、ありませんでした。

本当に、何もかも、です。

「よく食べる」や「よく遊ぶ」だっ

て、幼い子のお母さんには、誇りになることですが、それさえもないのです。

同年齢のお友だちとくらべるつもりはなくても、どうしても意識にのぼってしまいます。どうしてこんなに違うのか……。

もはや私は、他の子よりできてほしいとは思わなくなっていました。せめて普通であってほしいと、思っていました。キョウコだけができなくて目立つ、ということに疲れ、ただただ目立たないことを望んでいました。

私は苦悩していました。

やはり自分の育て方に、何か原因があるのではないかと感じてしまうのです。

でも私は、私なりに努力をしていました。

それなのに、なぜキョウコは、できないんだろう？

みんな苦労せず、自然にできるようになっていることが、親がこれだけ手をつくし、努力をし、それでもできない……なぜなんだろう？

思えば当時、私はちょっとした「うつ状態」だったかもしれません。

ある時、母が、そんな私の気持ちを

見すかしたようにいいます。

「はずれクジをひいちゃったと思ってるでしょう？」

その通りでした。

ひどいいい方でしたが、私が感じていたことは、その通りだったのです。

大切なわが子を「はずれクジ」とは、あんまりです。ですが、本当にその通りだったので、いいかえせません。

それどころか、「なんてぴったりの表現だろう！」と、内心、感動していました。

いろいろな子がいて、その中でも特に「大はずれ」をひいてしまった、と思っていました。

母は、そんな私を責めるでもなく、おもしろそうに笑っています。



「お母さんもね、昔、そう思った！
すごいはずれをひいちゃった、って。
おみくじだったら“大凶”ね」

ここでいう「はずれ」は、もちろん
私のことです。

ききずてならないことをいいます。

「そんなに、はずれだったの？」

「ええ、もう、返しに行くところが
あったら、返しに行っていたでしょう
ね。返しに行くところがないから、仕
方がなく育てたのよ」

母は悪びれる様子がありません。

キョウコを「はずれ」だと思いつつ、
そんなことを思ってしまう自分を責め
ていたのが、バカバカしくなってくる
ほどに、爽快でした。

たしかに、私自身、まぎれもなく「は
ずれ」だったのです。長く忘れていた
ことでした。

私も発達が遅く、不器用で、何もで
きない子どもでした。もしかしたらキ
ョウコ以上だったかもしれません。

母は、こんなふうにいいました。

「できるようになるまでに苦勞する
子を育てるのはたいへんよ。すぐでき
るようになっちゃう子のことが、うら
やましかったわ。でもね。できるよう

になるまでのプロセスを、ゆっくり観
察できることは、やっぱり幸せなこと
だったわ」

私には、まだ納得がいきませんでした。
た。

当時のキョウコはできないことだら
けの人でしたから、「できるようになる
までのプロセス」といわれても、ピン
ときません。はやくできるようになっ
た方が良いに決まっています。

母は、私が理解できていないことを
さとったのでしょう。言葉をつなぎま
す。

「親が気づかないうちに、できるよ
うになっちゃった、っていうのは、親
にしてみれば楽なようできて、すごく
損をしていると思うわ」

私は、考え込んでいました。ちょっ
とだけ、その意見も分かる気がしてき
たのです。でもすぐに認めるには、私
はあまりにも疲れてしまっていました。

母は、私にききます。

「これ、負けおしみにきこえる？」

私はここぞとばかりに、強くいいか
えします。

「うん、負けおしみにきこえる」

苦笑する母に、私はさらにいいます。

「やっぱり、できないよりは、できた方が良いもの！」

母は笑いながらいいます。

「そうかしら？ どうやったらできるようになるのか、試行錯誤できるのは、楽しいことよ。アヤコが“できそこない”だったおかげで、お母さんは楽しかった。本当に楽しかったのよ」

ここに、わが子が“できそこない”だったことを喜び、感謝する親がいました。驚きで、しばし私は言葉をかえすことができませんでした。

そして母は、ここで急に真剣な顔をし、こんなことをいったのです。

「お母さんね、こう思ってる。キョウちゃんはね、アヤコに大切な何かを授けに来た人なのよ」

何か？ 何かって何？

なかば混乱している私にむかって、母は預言者のようなセリフをはきます。

「キョウちゃんは、何もかも時間がかかる人だから、アヤコに“忍耐”を授けることになるでしょう。ユメキは、すべてが規格外だから、セオリー通りにいかない人。アヤコに“工夫”を授けることになるでしょう」

私は視界が一気に晴れるような感覚

を味わっていました。

そうだったのか！

当時の私に、一番欠けていたのは、実は“忍耐”だと合点がいったのです。

できるようになるまでに膨大な時間を要する娘こそが、「はやくできるように」とばかり気がはやるおろかな母親をいさめるためにつかわされた人だと考えると、納得がきました。

2人の子どもが2人そろって「はずれ」だった私がいうことですから、負けおしみにきこえるかもしれません。

でも、あえていいたいと思います。

今、大きな声でいいます。

「はずれ」で良かった、と。

できない子を育てることで埋められたものを、今になって感じることもあるのです。 (江口 彩子)



◆ ひよこちゃんのリハーサルをおこないます

今年のピアノ発表会は、8月4日（金）、5日（土）、6日（日）、7日（月）の4日間です。このうち、5日（土）と6日（日）には、リトミック発表「ひよこちゃんのたねまき」があります。

ピアノのレッスンをお受けになっている生徒さんは、全員、ピアノ演奏でご参加いただけます。ピアノをまだおはじめになっていない、小さな生徒さんは、リトミック発表「ひよこちゃんのたねまき」にご参加ください。

「ひよこちゃんのたねまき」では、おうちの方といっしょに舞台上に上がっていただき、曲にあわせて歌ったり身体を動かしたり、普段のリトミックのレッスンで学んだ成果を発表していただきます。

ピアノをおはじめになっていても、「まだ一人で舞台上上がるのは心配」という生徒さんは、「ひよこちゃん」の方にご出演いただいても大丈夫です。また、ピアノをおはじめになっていて、同時にリトミックのクラスで「ひよこちゃん」の練習もしていらっしゃる方は、両方にご出演いただくこともできます（その場合は、ピアノ演奏の参加費のみでけっこうです）。

「ひよこちゃん」の演目の練習は、すでにリトミックの各クラスでスタートしつつありますが、当日のように、より広いところで、より多くのお友だちと、いっしょにやってみる経験も必要です。当日、びっくりしてしまわないためにも、ぜひリハーサルにご参加ください。リハーサルのレッスン料は発生しません。

7月17日（月・祝） 13:00～14:00

7月30日（日） 11:00～12:00

2日ともいらっしゃれる方は、2日ともいらしてください。場所はいずれも、「ひびきホール」です。

「ひびきホール」は、西武池袋線「東長崎」駅、南口より徒歩7分、「まいばすけっと」の3階です。

ご不明な点は、リトミック担当スタッフに、お気軽におたずねください。



◆今年度のスケジュールについて

すでに2017年度のレッスンスケジュールが、お手元にわたっていると思います。まだお持ちでない方は、担当の先生もしくは、ショパンはうす受付に、お申し出ください。

今年度のもっとも大きなイベントである「ピアノ発表会」は、前項でも書きましたように、8月4日(金)～7日(月)の4日間です。「ピアノ発表会」のくわしいご案内は、6月上旬よりお配りする予定です。

11月3日の文化の日には、おとなの方の発表会である「音楽の集い」をおこないます。これは例年通りです。

年があけての1月～2月には、「ピアノ・トライ」をおこなう予定です。年内にお申し込み受付日をもうけます。日が近くなりましたら、またくわしいご案内をさせていただきます。

3月には、客員教授のプリドノフ先生ご夫妻が来日されます。年間スケジュール作成時には、先生方のスケジュールが確定していなかったため、スケジュールに載せることができませんでした。申し訳ございません。

3月中旬に、プライベートレッスン、コンサート、「ジュニアコンサート・オーディ

ション」を予定しています。日程はかたまり次第、お知らせいたしますが、来日についてはもう確定です。レッスンやオーディションに参加される生徒さんは、それをみずえて、ご準備に入ってください。

◆節電にご協力ください

5月の連休を過ぎると、もう暑い日が多くなってきます。

防音の関係で気密性の高い教室は、お部屋が暑くなりがちです。特にグループレッスンのお部屋は、集まった人の体温と、お子さまの情熱で、エアコンをかけていても、暑くなります。

すでに教室では、ほとんどの場面でエアコンを使っていますが、お子さまには薄着になれる服装でいらっしゃるよう、お願いいたします。お子さまにあわせてお部屋を冷やすと、つきそうおうちの方には寒くなってしまうことも多く、お子さまに薄着になっていただくのが、ベストです。涼しいと思える日でも、上着を脱げば、上はTシャツ1枚くらいになれる服装が、ちょうど良いです。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。(今年度より、月曜日の夜に行なっております。よろしくお願いたします)

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。